

バラエティーに富んだ活動を紹介

地域に根ざす シルバー事業

特集

SPECIAL

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、センター活動が制限される一方、工夫を凝らしながら活動を行っている事例も数多く見られます。そんなセンターの地域に根ざした取り組みを集めました。

ハスカップ栽培を行いドライブスルー方式で販売した恵庭市 SC、地元のバラ園で公園管理を行う赤磐市 SC、新生児への「赤ちゃんギフト事業」を受託した大木町 SCなど、バラエティーに富んだ活動を紹介します。

新型コロナウイルス感染症対策で ハスカップをドライブスルー販売

恵庭市 SC
(北海道)



ハスカップのドライブスルー販売。会員が午前中に収穫した生果実をバック詰め（写真右）し、車に乗ったまま購入できる

恵庭市S Cでは、平成24年からハスカップの市民開放事業を実施しています。例年は、市民自らが収穫を楽しむスタイルでしたが、令和2年は新型コロナウイルス感染症対策のため中止せざるを得ませんでした。

そこで、初の試みとしてドライブスルーによるハスカップの販売を行いました。午前中に会員が摘み取った生果実を1kgのパック詰めにし、午後からドライブスルーで販売するというものです（購入は、1車両につき3kgまで）。販売は13時開始ですが、9時すぎから車が並び始める盛況ぶり。販売時間前には当日の収穫量を大幅に上回る車両が並び、購入できないお客さまもいました。

当初は6月25日～7月6日の12日間の開催予定でしたが、天候不順などによる不作もあり、10日間の販売となりました。期間中の売上実績は142万9200円（300台が購入、ハスカップ販売数量794kg）となりました。



ハスカップを収穫する会員（写真右）。ハスカップは、シベリア原産の樹高1～2mの果樹で、果実は青みがかっている（写真上）。独特の酸味と苦味が特徴で、栄養が豊富。収穫時期は5月中旬～6月初旬



朝早くから、恵庭市S Cが栽培したハスカップを目当てに車が列をなした。10日間の販売数量は計794kg！

独自事業のギャラリーで チエブクロー巾着袋を製作・販売

富谷市SC
(宮城県)

富谷市SCでは独自事業の一環として、手作り小物製作販売「ギャラリーなごみ」を運営。古民家を改装して“地域の縁側”のような店を開いていますが、狭い中でも会員のやる気とアイデアはあふれています。令和元年10月にチエブクローデザイン物品等の販売認可を全シ協から受け、チエブクロー巾着袋の製作・販売を開始。10人ほどで手分けしてパーツを作り、一つ一つ心を込めて表情を確認しながら、かわいらしい商品を完成させました。

5年前にはチエブクローの着ぐるみを作りました。みんなで力を合わせて製作したときのことを思い出しながら、巾着袋作りに取り組んでいます。近隣のセンターにも完成した商品を置いて、チエブクロー巾着袋のPRに協力してもらっています。



丁寧な手仕事で、チエブクローの巾着袋を作る会員たち。ひもの縛り方で表情が変わる、愛らしいデザイン

古民家を改装した「ギャラリーなごみ」



手分けして巾着袋のパーツを切り出し（写真左）、表情を確認しながら心を込めて縫い付けていく（写真右）



5年前に製作したチエブクローの着ぐるみ（写真上）。地域のイベントに登場すると、子どもたちから大人気に（写真左）。巾着袋作りは、着ぐるみ作りの経験が生きている